



流木が浮く上椎葉ダム。下流にある発電所が運転停止となっているため、被災後も放流を続けている。



収穫間近の稲も被害。農家にとって深刻な状況に（川ノ口）。



高塚山（大河内）の大規模な地滑りで林道が崩壊。



村道が崩壊して危険な状況に。道路が復旧されるまで徒歩で往復（榎峠）

▶道路が土石流で崩壊したため緊急に作られた橋。被害が大きすぎて復旧の見通しが立っていない（竹ノ八重）。



河川の氾濫で鹿野遊小体育館、教員住宅、村営住宅が床上浸水。

松尾地区・耳川

増水で10m以上も水位が上がり、家屋3棟が流失。下流域の諸塚村、西郷村、東郷町でも多数の浸水被害が発生。



梅尾地区・小丸川

災害復旧を終え今年7月に行われた「小丸川源流まつり」の会場。芝生も植え付けて間もないのにすべて流失。



水害の恐怖





黒木 武太郎さん（中山下）

9月6日の正午頃に妻と2人で昼食をとっていた時、もの凄い地響きとともに家全体が揺れ始めました。あっという間に家が押しつぶされ、気がついたら庭に飛び出していました。すると、家の中から妻の助けを求める声があったので、慌てて崩れた家の中に入ると足を挟まれたまま動けなくなっていました。

何とか隙間から這い出してきた所を助けたのですが、足に15cmほどの裂傷がありました。道路が寸断されていたので、翌日地域の方々の協力を得ながら、毛布で担架を作るなどして病院まで運びました。壊れた家を見ると恐ろしさがよみがえり、命がよく助かったものだと思います。



甲斐 春男さん（畑鳥ノ巣）

台風が最も接近した9月6日の早朝、家のすぐ下から大きな地響きとともに地滑りが発生。家に通じる道路も寸断され、慌てて家族みんなと徒歩で避難しました。

被害としては、自家用車1台が地滑りに巻き込まれ、さらに家屋の下がえぐられて危険なため住めなくなりました。また、電気や電話も利用できずしばらく孤立状態が続きました。現在は、地元の公民館で避難所生活を送っていますが、皆さんの励ましや支援によりようやく落ち着きを取り戻したところです。

私が体験した災害の瞬間

荒竹 和久さん（竹ノ八重）

激しい雨がピークを迎えた9月6日の昼頃、庭先から対岸の山が川の流れによって崩れていくのが見えました。明るいうちはまだ少しいった地滑りも、暗くなってからはだんだん石が落ちていく音が大きくなっていきました。

そして、深夜0時過ぎ頃、山々に響き渡るような大きな音が聞こえてきました。その音は朝まで続き、明るくなって再び庭先から見ると、高さ300m以上もある大きな地滑りが発生していました。さらに、私が住む地域では家に通じる道路がすべて崩壊したため、今でも車を出すことができません。1日も早い復旧を望んでいます。



尾前 陽子さん（尾前下）

尾前地区では9月5日から激しい雨が降り続き、6日には家屋2戸と尾前地区集会センターが全壊しました。尾向小グラウンドにも水が流れ込むなど道路にも水があふれ、このような川の増水は初めて見ました。

昨年も大きな災害が発生しましたが、今回は「まさかこんな所で」と思う場所が被害を受けて驚きました。早く普通の生活に戻ればよいのですが・・・。

